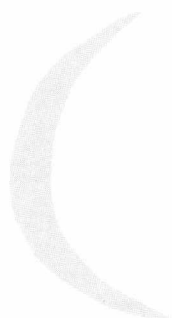
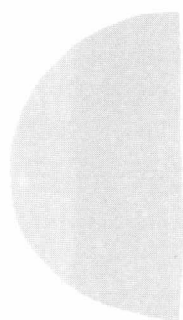


仮面の声

高良留美子



仮面の声



高良留美子

仮面の声

著 者——高良 留美子

装 幀——長谷川芳一

発行者——笛木 利忠

発行所——土曜美術社

東京都新宿区市ヶ谷薬王寺町八二―三〇五

〒一六二電話〇三〇三三五〇六七二六 振替東京七・九九二九二

発行 一九八七年六月二〇日

定価 一八〇〇円

ISBN 4-88625-147-1 C0092 ¥2800E

仮面の声

目次

I

海のなかにいる母のように

10

わたしの海

13

海の部屋

16

女ともだち

20

少女時代

22

乾燥地帯

24

指輪つくりと木

26

カリフォルニア砂漠で

29

メキシコシティの天国と地獄

36

銀の町タスコへ

40

Ⅱ

実 44

大工さん 46

マジシ・クネーネの家 (1) 48

マジシ・クネーネの家 (2) 50

大風あげ 54

恋唄 58

ブリキの太鼓 61

風のなかから 64

薄い花びら 66

産む者の声 68

産む 72

挽歌 76

アフリカ流井戸端会議 80

鳥の宇宙 84

背広 86

Ⅲ

こんにちわといえない 90

主人 94

ある政治家への挽歌 98

一銭玉 101

堅実な末路 106

戦争が終ると 111

赤鉛筆 114

戦争の死者 117

春の来訪者 119

ブレーキメン森安吉 125

原石を売る老人 129

夜通しわが夢を 132

あとがき 134

初出一覧 136

仮面の声

I

海のなかにいる母のように

わたしの心が

もっと広くて 深いといい

海のように 海のなかにいる母のように

そうすれば 苦しんでいる子どもの

苦しみの ひとかけらが

容れられるかもしれない

苦しんでいる子どもの 苦しみは

この世にあってはいけないもの

そつと抱きとつて 抱きしめてやりたい

わたしの心が

もつとゆたかで 柔らかだといひ

海のように 海のなかにいる母のように

そうすれば 傷ついている子どもの

凍りついたなみだの ひとしずくが

溶かせるかもしれない

傷ついている子どもの 凍りついたなみだは

この世にあつてはいけないもの

そつとすくいとつて 溶かしてやりたい

わたしの心が

もっとはげしく 荒れくるえるといい

海のように 海のなかにいる母のように

そうすれば 苦しんでいる子どもの

怒りといっしょに

荒れくるえるかもしれない

苦しんでいる子どもの つめたい怒りは

この世にあつてはいけないもの

どこまでも 荒れくるわせてやりたい

海のなかに 母はいるのか

母のなかに 海はあるのか

わたしの心が

もっと広くて 深いといい……

わたしの海

わたしの海には わたしの海の
厚みと そして幅がある

近づくにつれて低くなる 水の位置
いつも同じところにあった 島

わたしの海には わたしの海の
匂いと そして感触がある

砂浜で拾ってきた いかの甲の

乾いた肌の放っていた 潮の香り

わたしの海には わたしの海の

人たちと そして労働しごとがある

炊事婦をしていた おとらさんの

啞の肩に喰いこんでいた 赤いたすき

わたしの海には わたしの海の

子どもらと そして声がある

薄闇のなかを動きまわる 人影と

陣とりの開始を告げる 遠い叫び声

わたしの海には わたしの海の